

私の 3 冊

高橋 素彦

たかはし・もとひこ 医師 23 年目
横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

現在は、脳卒中を中心に急性期～回復期を主に担当しています。数年前までは横浜市総合リハビリテーションセンターで生活期のリハビリテーションを担当していました。今回お薦めしたのは、それぞれの著者自身が実際に患者を診てきた経験の裏付けが感じられる教科書です。

後輩に薦める 2 冊



脳卒中の摂食嚥下障害 第 3 版 Web 動画付

藤島一郎，谷口 洋 著
医歯薬出版 2017 年

基礎知識・評価・訓練法以外にも、経管栄養法，外科的対応，チームアプローチ，倫理的問題など脳卒中の嚥下障害を診療するうえで必要なことをすべて学べる教科書です。私の嚥下障害診療はこの教科書（の第 2 版）とともにありました。これから始める皆さんにも初めの 1 冊としてお薦めします。



脳卒中の早期リハビリテーション 第 2 版

二木 立，上田 敏 著
医学書院 1992 年（絶版）

脳卒中の早期だけでなく、急性期から回復期，生活期のリハビリテーションについての教科書です。30 年近く前の出版ですが，評価，予後予測，チームワークなど現在でも十分に役立つ内容です。残念ながら絶版になっています。予後予測については二木氏の論文のほうが手に入りやすいと思います。

自分の 1 冊



中井久夫コレクション 世に棲む患者（ちくま学芸文庫）

中井久夫 著
筑摩書房 2011 年

著者は精神科医師で，講演録や論文などを一般向けに編集した書籍です。「住む」ではなくて「棲む」という題名に惹かれて購入しました。以後，同じ著者の本を，続けて読むようになりました。内容を要約してお伝えするのは難しいので，私の気に入っている部分を以下に引用します。

いわゆる社会復帰には，二つの面があると思う。一つは，職業の座を獲得することであるが，もう一つは世に棲む棲み方，根の生やし方の獲得である。そして，後者の方がより重要であり，基礎的であると私は考える。